2017 年度統計関連学会連合第２回理事会・組織委員会　議事録

日　時：2017 年 9 月 6 日（水）15:10 – 16:40
場　所：南山大学名古屋キャンパス S 棟 S51 教室
出席者：

【学会連合理事】	
応用統計学会	永田 靖
日本計算機統計学会	大石雅彦，足立浩平
日本計量生物学会	浜田知久馬
日本行動計量学会	足立浩平（代理出席）
日本統計学会	赤平昌文
日本分類学会	栗原考次（理事長），山本義郎
【連合大会実行委員会】	白石高章(2017)，鎌倉稔成(2018)
【連合大会運営委員会】	川崎能典(2017)，笛田 薫(2018)
【連合大会プログラム委員会】	谷崎久志(2017)，汪 金芳(2018)
幹事	石岡文生，酒折文武，冨田 誠

組織委員会・報告

1．2017 年度連合大会報告

(1) 谷崎プログラム委員長より，セッション数ならびに講演報告数の報告の後，以下の意見や議論があった。

- 今回は 9 つの並行セッションがあったが，従来から並行セッションの数が多いとの議論がある。並行セッションを減らすために日程を増やせば，日程を指定してくる報告者が増加し，プログラムを組むのが困難になる。日程指定をしてきた報告者は分野を考慮しないなどの対策が必要ではないか。
- 英語セッションに関して，申込時に英語で発表してもよいとした報告者約 100 名に対し，本当に英語で発表するか個別に問い合わせたが，来年度以降はそのような事が無いような仕組みにするべき（申込時の選択肢を工夫するなど）。また，氏名についてローマ字でも入力させる，講演題目と報告原稿も英語で提出することを講演申込時に指示するとよいのではないか。
- 英語セッションの質疑応答については日本語でもよいのではないかという意見が出され，座長がフレクシブルに対応することを確認した。
- 速報版プログラム（pdf ファイル）をプログラム委員で作成するのは負担との意見が出された。予算を計上して業者に依頼する，学生バイトを雇う等，この件については引き続き検討する。
- 業者が作成する web 版プログラムは速報版プログラムをもとに作成されておらず，間違いが非常に多い。web 版プログラムの作業工程について業者と打合せてはどうか。

(2) 白石実行委員長より，以下の報告や意見があった。

・ 市民講演会の演題が 5 月に作成したポスターのものと変更になってしまった。
・ A 会場のプロジェクタ 2 台のうち，1 台が不調であったが，致命的な問題にはならなかった。
・ 懇親会は，大学の食堂業者撤退に伴いケータリングを利用することになった。
・ 座長が遅れるという事態が 2 件あった。来年度以降，この様な状況になったときはプログラム委員の方で対応してはどうかとの提案があった。

(3) 川崎運営委員長より，以下の報告や意見があった。
・ 参加者（事前参加申込と当日参加申込の合計人数）は，いずれも速報値であるが，9 月 4 日～6 日の本大会が 839 名，チュートリアルセッションが 170 名，市民講演会が 205 名，懇親会が 222 名であった。
・ 今回の大会は合計 30 の企業・団体などに協賛頂き，協賛関係の収入は約 182 万円の収入を予定している。
・ 決算報告については，昨年度の運営委員長の桜井裕仁氏に会計監査を行ってもらった上，次回の組織委員会で報告する。
・ スーツケースを預かってほしいという要望が 5 名からあり，運営委員が責任を負わないことを条件として控室で預かった。来年度以降も起こりうるので，何か対応策を考えておいた方がよいと思われる。
・ 運営委員は受付等の事務作業が中心となるため，大会期間中は十数名が揃っていないと仕事にならない。各学会で運営委員を推薦する際に，その辺りを考慮した人選を行ってもらえるとありがたい。

<u>組織委員会・議案</u>

1. 2018 年度連合大会各委員長について
・ 実行委員長に鎌倉稔成氏（中央大学），運営委員長に笛田薫氏（滋賀大学），プログラム委員長に汪金芳氏（千葉大学）とすることが承認された。
・ 実行委員は実行委員長が任命すること，また，運営委員およびプログラム委員については各学会から選出する 1～2 名，ならびに委員長からの被推薦者によって構成することを確認した。委員を選定し，次回の組織委員会で決定する。

2. 2018 年度連合大会の運営方針について
・ 栗原理事長より，英語セッションの充実化について，来年度は日本統計学会の国際交流事業や Wakimoto Memorial セッションなどの開催が予定されており，英語セッションは一定数確保できる見込みとの説明があった。
・ 栗原理事長より，来年度は本大会の日程を試行的に 4 日にすることが提案され，承認された。
続いて，鎌倉実行委員長より，2018 年 9 月 9 日（日）をチュートリアル・市民講演，9 月 10 日（月）～9 月 13 日（木）を本大会とすることが報告された。
・ 大会参加費は，運営委員・実行委員で検討し，組織委員会で決定することを確認した。
・ 栗原理事長より，2018 年度のプログラム副委員長（2019 年度プログラム委員長）と運営副委員長

（2019 年度運営委員長）は，次回の理事会・組織委員会で決めることが提案され，承認された。引き継ぎ等の問題から，各副委員長も理事会・組織委員会に参加してはどうかとの意見があった。

連合理事会・報告

1. JJSD の発刊について

栗原理事長より，以下の報告があった。

- 2017 年 9 月 12 日から投稿受付を開始し，2018 年度 6 月に Vol.1 No.1 を発刊する。
- Associate editor が査読者を選出する。
- 基本的には電子ジャーナルだが，6 学会の会員は 1 万円，非会員は 1 万 6 千円で冊子を購入する事も可能。印税は統計関連学会連合に入る。
- 略称は「JJSD（ジェー・ジェー・エス・ディー）」とする。

2. JJSD のロゴについて

栗原理事長より，ロゴ制作の経緯についての説明，および費用が 3 万円だった旨の報告があった。今後，欧文ジャーナルや HP 等で利用する。

連合理事会・議案

1. 規定の改正について

本会の規定に，統計科学に関する機関誌の発行，ならびに，規定の改定は理事会の決議によって行う旨を追加することが提案され，承認された。

2. その他

- 2019 年度の連合大会の開催地について，これまで慣例であった東日本と西日本で交互に開催することには拘らないことが確認された。選考については栗原理事長に一任することが承認された。
- 連合としての行動基準を近々HP に公開する。
- JJSD について，学会員でなくても投稿はできること，電子ジャーナルを見ることが出来るのは 6 学会員である必要があること，ならびに投稿費・論文掲載費は発生しないことを確認した。栗原理事長より，2 年間はこの方針で進めていくが，問題点があれば適宜知らせてほしいとの依頼があった。
- 今後の連合の運用方針について，会計担当をおいてはどうか，事業委員会（欧文ジャーナル）をどういったペースで開催するか，また，その結果を理事会に挙げる仕組みなどを，今後整備して必要があるのではとの意見があった。
- 次回の理事会・組織委員会は，日程調整の上，11 月～12 月のどこかで開催する。